

文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」による「清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト」(2015-2020)の成果発表

6年にわたる本事業の取組みの成果や課題などとともに、連携体制の継続方針について、岐阜新聞に記事が掲載されました。



岐阜大や岐阜薬科大など県内の産学4機関による女性研究者の育成を目的とした連携事業「清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト」が今年3月に終了した。文部科学省の助成事業として6年にわたって取り組み、女性研究者の研究力向上にもつながった。4機関は本年度以降も、自主事業に切り替えて取り組みを継続する方針を確認した。(大賀由貴子)

女性研究者 成果キラリ

県内産学連携6年事業

プロジェクトには、岐阜女子大と健康食品・医薬品製造のアピ(岐阜市加納桜田町、野々垣孝彦社長)も参加。女性研究者が出産や育児にかかわらず研究を継続できる環境の整備や、上位職登用を推進する大学の取り組みを助成する文科省の事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」として2015年にスタートした。

4機関に所属する女性研究者が代表となり、他の機関の研究者と共同研究をする場合の助成や、育児中の研究者に研究補助員を配置する制度などを実施した。62件の研究で助成制度が利用され、延べ110人が補助員を活用した。

女性研究者を支援する6年間のプロジェクトが終了し再スタートを切った。岐阜大など産学4機関の関係者＝岐阜市柳戸、同大

育児と両立 学位取得や単行本出版

共同研究を基に単行本を出版した研究者や、学位を取得する企業内研究員が出るなどの成果があった。また、学内にダイバーシティの専門部署を初めて設置したり、女性学長が就任したりするなど、各機関の職場環境の変化も着実にみられた。本年度からは4機関の連携体制はそのままだに、自主事業「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」として、支援制度を継続する。

4機関の代表者らは、プロジェクトの成果を発表する記者会見を岐阜市柳戸の岐阜大で開いた。責任者の大藪千穂副学長は「4機関の管理職の意識変革は確実に進んだ」と成果を強調。女性研究者の登用率が半数の機関で目標を達成せず終わったことが課題となっており、「今後は地道な作業となるが、未来の女性研究者を増やすために、小中学校での出前授業などにも力を入れたい」と話した。

6年間の成果と課題をまとめた報告書は「清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト」のホームページで公開している。

岐阜新聞 令和3(2021)年6月21日付掲載

【参考記事】

岐阜薬科大学: <https://www.gifu-pu.ac.jp/news/2021/06/2015-2020.html>

岐阜大学男女共同参画推進室: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/pdf/20210616.pdf>